

人と自然のつきあい方を考える 高知県黒潮町の防災ツーリズムのご案内

Kuroshio Town Disaster Prevention Tourism Guide

高知県 黒潮町



自然が持つ恵みと災いの二面性を知り、 人と自然とのつきあい方を学ぶ

太平洋に面した黒潮町は、黒潮がもたらす豊かな自然が広がっています。クジラやイルカ、アカウミガメなどの生きものが近くに暮らし、カツオの一本釣り漁業や天日塩など、海からの恵みとともに文化が育まれてきました。また、ホエールウォッチングやサーフィン・シーカヤック・ビーチコーミング・釣りなどの自然体験スポットとしても人気の町です。

一方で、黒潮町には南海トラフ巨大地震による高さ34mという日本最大級の津波が想定されています。町では「避難放棄者ゼロ・犠牲者ゼロ」を目指し、全役場職員が防災地域担当として町中に散らばり、官民が一体となって防災のワークショップを何度も繰り返してきました。結果、浸水区域内の全町民の避難カルテが作成され、それに基づいた避難道や津波避難タワーを建設、現在も避難訓練をはじめとした様々な防災対策に取り組んでいます。

昨今、日本だけでなく、世界中で地震・台風・土砂災害・噴火・洪水・森林火災など大規模な災害が多発しています。今や安全なところはどこにもないのかもしれませんが、そんな中で私たちに大切なことは、「自分の命は自分で守る」ために、“自ら考え行動する力”を身につけることではないでしょうか。

黒潮町の防災ツーリズムは、自然が持つ恵みと災いの二面性を理解し、その自然と上手につきあうための文化や知恵を学ぶプログラムを提供しています。

避難訓練をはじめ、日ごろから欠かすことのない備品の点検など、常に防災への高い意識を持ちつつ、犠牲者ゼロを目指す町の人々の想いや取り組みについて知り、また、あらゆる状況を想定した答えのない問題に対して意見を交わすことで、生存の可能性を高める柔軟な発想も身につけます。

海の恵みいっぱいの自然体験や地元食材による食体験も豊富にありますので、防災について学びながら、ぜひ黒潮町の自然の魅力にも触れてください。



↑ 高知新聞
2019年9月6日



防災学習プログラム

自然の恵みと災いの二面性を理解し、「自分の命は自分で守る」ことの大切さを学ぶ

日本最大級の津波高が想定された黒潮町。暮らしのすぐそばにある海は大いなる恵みを与えてくれるとともに、時に大きな災いをもたらします。自然の恵みと災いの二面性を理解し、私たちがそうした自然の一員であることを認識し、『自分の命は自分で守る』ことの大切さに気づく学習です。



プログラムの流れ

《座学》

南海トラフ巨大地震の仕組みや、日本最大級の津波高想定が出された直後から現在までの黒潮町の防災対策や地域住民の取り組みを紹介します。

《ワークショップ》

災害時に発生するさまざまな状況を事例に、その状況に対し自分自身がどのように考え、判断をするのかを訓練します。さらにグループ内で出されたそれぞれの意見を議論し共有することで柔軟な判断力を養います。

《フィールドワーク》

過去の津波に関する石碑を訪れ、過去に津波被害に遭われた人々の想いを知るとともに、実際に津波避難タワーにのぼり、津波避難時の状況をイメージしていただきます。

防災缶詰プログラム／防災缶詰創作料理

防災缶詰を通じて非日常から日常を取り戻すきっかけを考える

災害時の困りごとの一つに、アレルギーを抱えた人が避難所に来た時に食べられるものがないという問題があります。「毎日食べたい非常食＝日(ひ)常食」として消費しながら賞味期限切れなく備蓄するローリングストックを推奨し、大手生活雑貨店などでも取り扱われている黒潮町の防災缶詰ができるまでの経緯や災害時にアレルギーを抱えた人でも食べられる工夫などを紹介します。

また、その防災缶詰を使った創作料理を味わうことで、日常から備える大切さと、有事の際の非日常から食事を通じて日常を取り戻すきっかけを学びます。



プログラムの流れ

《座学》

東日本大震災や、2012年に国から公表された34mという日本最大の津波想定以降の黒潮町缶詰製作所ができるまでの経緯、防災缶詰のこだわりなどを紹介・説明します。

《防災缶詰創作料理・食事》

7大アレルゲン不使用の防災缶詰を使った料理を味わいます。レストランシェフが提供する和食もしくは洋食のコースから選ぶ形式と、ゲストハウスで防災缶詰を使った料理を参加者と一緒に作るワークショップ形式があります。

地域防災実感プログラム

地区防災組織「防災かかりがま士の会」の日頃の取り組みから学び、自らの地域に活かす

黒潮町佐賀地域には、「かかりがましい」という方言があります。「必要以上に世話焼き」、「おせっかい」という意味を持ち、防災には「かかりがましい」繋がりが必要との思いから、住民同士が助け合う防災のことを「かかりがましい防災」と表現しています。黒潮町佐賀浜町地区の地区防災組織「防災かかりがま士の会」の地区での活動を紹介するとともに、実際に日々さまざまな防災活動に取り組むメンバーとの意見交換を行うことで、自らの地域防災の取り組みに役立てるプログラムです。あわせて国内最大級の高さを誇る「佐賀地区津波避難タワー」の見学も行います。



プログラムの流れ

《佐賀地区津波避難タワー見学》

佐賀地区津波避難タワーへのぼり、タワーの構造や仕組み、タワー内の居室部や地区住民の準備した備品などを紹介します。

《「防災かかりがま士」の取組紹介・意見交換》

防災かかりがま士の会が日々取り組んでいるさまざまな防災活動や、地区の中学校と連携した取り組み、津波避難タワー建設への思いなどを紹介するとともに、意見交換を行うことで、自らの地域防災の取り組みに活用していただきます。

佐賀地区津波避難タワー見学

国内最大級の津波避難タワーから学ぶ

34mという国内最大級の津波高を想定された町として、黒潮町には6基の津波避難タワーが設置されています。見学可能な津波避難タワー2基のうち、国内最大級の高さを誇る佐賀地区津波避難タワーは、階段とスロープを併設したバリアフリー設計が特徴。避難訓練と同時に備品の点検や追加を行うなど、日頃から高い意識を持ち、「犠牲者ゼロ」を目指す町の人々の想いや取り組みについて学びます。



プログラムの流れ

《タワー見学》

黒潮町内の津波避難タワーの機能、佐賀地区津波避難タワーの居室部や地区住民の準備した備品などを紹介します。また、平成29年度に高知県自主防災組織知事表彰を受けた地元自主防災組織から日常生活に根ざした『生活防災』の方法について実例を交えてお話しします。

《「逃げトレ」※アプリによる津波避難訓練(オプション)》

佐賀地区の塩屋の浜から避難広場まで、どのルートでどのくらいの速さで避難すればよいかなどを体感しながらスマホアプリを使って避難訓練します。

※「逃げトレ」:津波避難訓練支援アプリ (監修:京都大学防災研究所矢守研究室)

宿泊型夜間避難訓練プログラム

いつどこで起こるか分からない大地震や津波に備える

地震や津波はいつどこで起こるか分かりません。夜に地震が起こると、いつもは明るいときに通っている道も暗かったり、遠くまで見通すことができなかつたりと、昼間の避難とは違って気をつけることがたくさんあります。宿泊施設に泊まっている夜に避難訓練を行うことで、いつどこで起こるか分からない地震や津波に備えるきっかけとする宿泊型のプログラムです。

黒潮町では複数の防災プログラムをご用意していますので、夜間避難訓練体験前に防災学習などのプログラムを体験することで、より効果的に夜間避難訓練に取り組むことができます。



プログラムの流れ

《座学》

南海トラフ巨大地震や黒潮町の津波高想定、宿泊施設の防災に関する取り組み、夜間避難訓練の流れなどを説明します。

《夜間避難訓練》

ご希望により設定した時間に大規模地震が発生したと想定し、宿泊施設から近隣の津波避難タワーへ避難する訓練を行います。津波避難タワーにて津波避難後の注意事項の説明なども行います。

防災プログラム一覧

※プログラムにはそれぞれ案内人がつきます

プログラム名	時間	料金	受入人数	備考
防災学習プログラム	2時間	2,000円/名	5名～100名	フィールドワークでは、入野海岸・津波の碑・浜の宮地区津波避難タワーを回ります。
防災缶詰プログラム ／防災缶詰創作料理	2～3時間	3,500円～/名 (食事込み)	3名～50名 (要相談)	ホテルレストラン提供(和食・洋食セット) もしくは一緒に作るワークショップ形式
地域防災実感プログラム	2時間	2,000円/名	5名～50名 (要相談)	《オプションプログラム(無料)》 スマホを使った津波避難訓練 ※「逃げトレ」:津波避難訓練支援アプリ (監修:京都大学防災研究所矢守研究室)
佐賀地区津波避難タワー見学	45分	500円/名	5名～50名	
宿泊型夜間避難訓練プログラム	宿泊滞在時間中の 1時間	宿泊料 +1,000円	5名～50名程度 (施設によるため要相談)	少人数グループで利用できるゲストハウス、 大人数で利用できるホテルがあります。

黒潮の海がもたらす自然豊かな恵み

海の恵み体験



■ カツオの藁焼きタタキづくり

カツオ丸ごと1本を自分でさばき、豪快に藁で一気に焼くタタキづくりを体験します。手早く切り分け、地元 黒潮町産の天日塩を振って手でたたき、いただきます。ここでしか味わえない自慢のタタキは絶品!カツオ漁の話や土佐佐賀流の3度楽しめるカツオのタタキのおいしい食べ方を地元漁師さんに聞きながらカツオを堪能ください。海の恵みであるカツオを1本余すことなく食することで、食べ物大切さも伝えています。

■ 天日塩づくり

黒潮町特産の完全天日塩は、火を使わず「太陽」と「風」の自然エネルギーだけを使って海水から塩を育てます。天日塩ができあがる過程の中の手作業部分を体験します。塩づくりに来た人だけの特典でもあるミネラルたっぷりの塩エステ体験は老若男女問わず大人気です。最後は自分で詰めた天日塩をお土産に。黒潮の海の恵みをご自宅でも味わってください。



■ ホエールウォッチング

広い太平洋の大自然を堪能できるホエールウォッチング。あたたかな土佐の海には、ニタリクジラのほか、ハナゴンドウ、マイルカなどの生きものも多く生息しています。広い海、青い空、爽やかな潮風、それらの自然を堪能し、クジラたちに出会えた時の感動と興奮は語りつくせません。

■ サーフィン体験

ビギナーが練習しやすいほどよい波の大きさに安心して練習ができます。美しい黒潮の波に乗りながら、基礎と安全でルールを守ったサーフィンを学ぶことができます。海のエネルギーをダイレクトに感じながら心も体も癒せます。もちろん道具を持ってなくても大丈夫、手ぶらでお越しください。



■ シーカヤック体験

海遊びの楽しさは、その自由度の高さにあります。シーカヤックを浜に下ろして漕ぎ出せば、そこから日常とは別の世界が開けます。泳げなくても初心者でも大丈夫!一人が不安なら、二人で協力して乗るダブル艇もあります。さあ、シーカヤックに乗って潮風吹く黒潮の海へ漕ぎだしましょう。

日帰りプラン

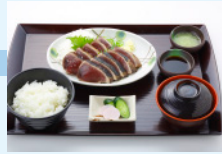
10:00-12:00



防災学習プログラム

📍 ふるさと総合センター、
入野海岸

12:30-13:30



昼食

📍 道の駅なぶら土佐佐賀

13:45-14:15



佐賀地区
津波避難タワー見学

📍 佐賀地区津波避難タワー

14:30-16:00



天日塩づくり

📍 ソルトビー

宿泊プラン

11:30-12:30



昼食

📍 道の駅ビオスおおがた

13:00-15:00



防災学習プログラム

📍 ふるさと総合センター、
入野海岸

16:00-18:30



防災缶詰プログラム
/防災缶詰創作料理

📍 一棟貸しの宿 黒潮の家

19:30-20:30



宿泊型夜間避難訓練
プログラム

📍 宿泊施設から避難タワーへ

18日

9:30-11:00



天日塩づくり

📍 ソルティープ

11:30-13:15



カツオの薫焼きタタキ
づくり

📍 カツオふれあいセンター
黒潮一番館

13:30-15:30



地域防災実感プログラム

📍 佐賀地区津波避難タワー
交流センターみらい

28日

※滞在時間に合わせて防災プログラムと海の恵み体験を、ご希望に応じて組み合わせることができます。

参加者の声

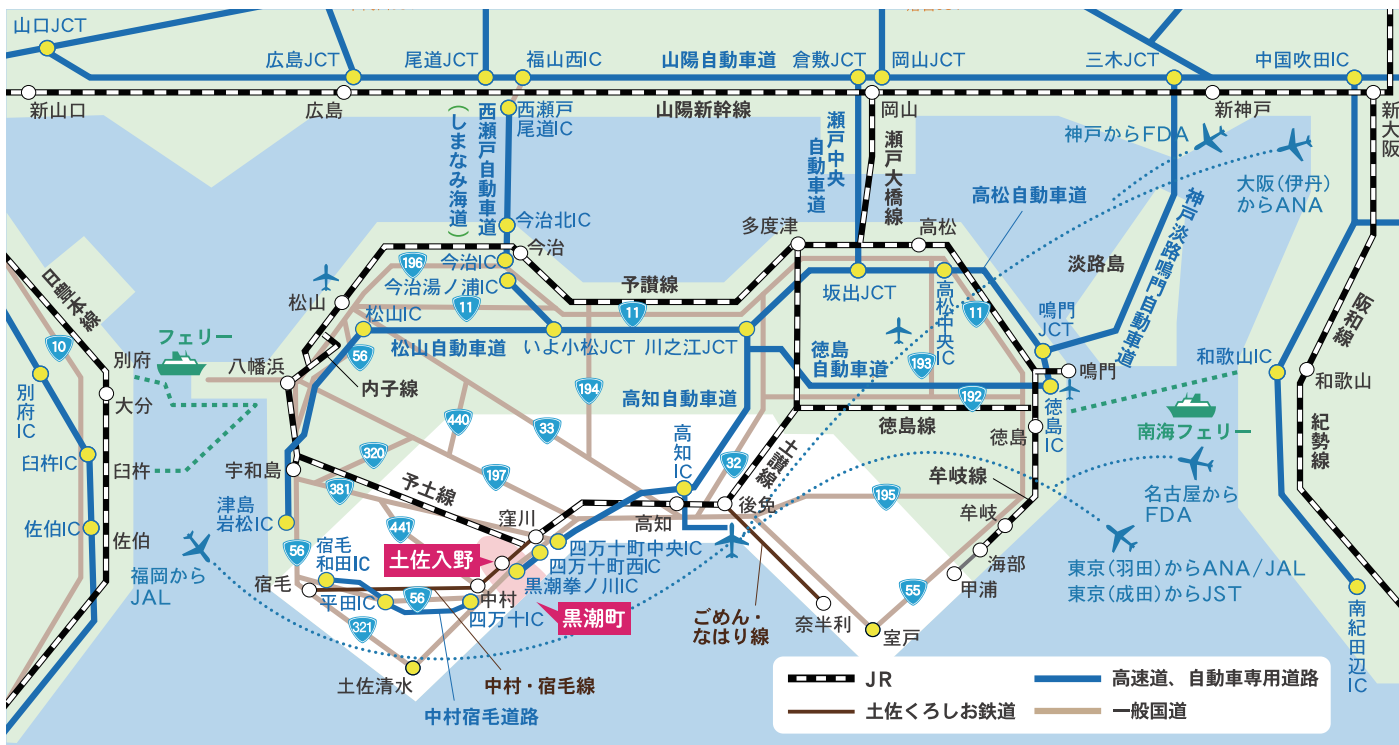
グループワークが面白かった。自分は当たり前
と想着いても、人それぞれの考え方や感じ方
があり、固定観念にとられるのは良くないと
感じた。防災の意識を日頃から高く持ちたい。

【香川県/30代女性】

住民の皆さんにとって自然は生活の重要な部分を
占めていて、それゆえに防災にも力を入れている
ことがよく分かった。災いについて学ぶからこそ、
自然の恵みのありがたさが感じられ、自然の恵み
について学ぶからこそ、災いに備える大切さを
知ることができたと思う。【京都府/20代男性】

全国各地の自主防災組織や海外からの研修生・学生など年間80件(約1000名)の団体様が
防災プログラムに参加しています(2014年より実施)。

黒潮町へのアクセス



黒潮町内の各施設へのアクセス



自動車の場合

高知空港 ⇒ 黒潮拳ノ川IC
約91km / 約1時間30分

黒潮拳ノ川IC ⇒ 道の駅なぶら土佐佐賀
約8.4km / 約12分

黒潮拳ノ川IC ⇒ 道の駅ビオスおおがた
約22.1km / 約26分

道の駅なぶら土佐佐賀 ⇒ 道の駅ビオスおおがた
約14km / 約19分

道の駅なぶら土佐佐賀 ⇒ 佐賀地区津波避難タワー
約1.5km / 約5分

道の駅なぶら土佐佐賀 ⇒ ソルティーブ
約6.2km / 約9分

道の駅ビオスおおがた ⇒ ソルティーブ
約7.8km / 約11分

道の駅ビオスおおがた ⇒ ふるさと総合センター
約2.5km / 約6分

道の駅ビオスおおがた ⇒ 入野漁港
約3.5km / 約9分

お問い合わせ先・ご予約

一般社団法人 黒潮町観光ネットワーク

TEL 0880-43-0881 FAX 0880-43-1527

Email info@kuroshio-kanko.net

〒789-1911 高知県幡多郡黒潮町浮籬3573-5 (ビオスおおがた情報館内)

黒潮町
防災ツーリズム
公式サイト

